

平成 30 年 4 月 13 日

専門家からの御意見について

(岡山大学 竹中教授)

佐賀県民環境部
原子力安全対策課

配付資料 1 「玄海原子力発電所 3 号機 脱気器空気抜き管からの蒸気漏れについて」に関して、岡山大学大学院自然科学研究科 竹中博士教授からいただいた御意見については下記のとおりでした。

記

- 資料の何箇所かで「何らかの要因で雨水が（保温材中に）浸入」とありますが、この「何らかの要因」と表現されているのは、
A:考えられる要因が多すぎて短く書けないのでそう表現した
B:要因は多くはないが複数考えられ、どれが主な要因か特定できない
C:要因が皆目分からない
のうちのどれでしょうか？
Cの場合は、まずは要因を調べる必要があるでしょうが、AやBの場合、（停止時も含めて）雨水の浸入を防ぐ、あるいは軽減する対策は取る、あるいは取られたのでしょうか？
それとも、雨水の浸入を完全に防ぐことは困難なので、そのような対策よりも点検等の他の方策を重視する方針を取られるということでしょうか？
- （今回のような配管だけでなく）覆われて見えない設備を非破壊検査などでモニタリングすることはできないのでしょうか？
今回の場合、実際に配管に貫通穴があったわけですが、非破壊検査では検出できないのでしょうか？
「5. 対策【今回の事象を踏まえた新たな取組み】」にあるような精神的な対策も大事ではありますが、異常を可視化できればより安心です。